

## 池田徹郎先生を悼む

## 弔 詞

池田徹郎先生 10月2日午前1時25分に 御逝去との報に接し、天文学会の巨星を失う驚愕とともに、再び、先生のあの温顔に接し得ぬ、深い悲しみの念に、耐え難い思いがいたします。

先生は、大正11年京都帝国大学理学部物理学科を御卒業になり、同年文部省緯度観測所技師に任官、気象課長として、活躍されました。その間「水沢における上層気流の統計的研究、並びに、その緯度変化に及ぼす影響」の研究論文をとりまとめて、昭和27年、理学博士の称号を受けられております。

先生は、昭和22年から38年の17年間の永きにわたり、緯度観測所長に就任され、国際協同観測による地球自転の極運動の研究事業の推進に努められ、昭和37年より、国際極運動観測中央局に推されることになりました。

このようななかにおいて、先生は、日本学術会議における天文学研究連絡委員会委員、地球物理学研究連絡委員会委員、地震予知研究連絡委員会委員を努められ、また測地学委員会委員、測地学審議会委員として、全国学術行政の拡充に尽力されました。

先生は、日本天文学会の評議員を昭和23年より4期16年努められ、その間、昭和34年より2年間は、理事長として、日本天文学会の発展に尽されました。

このように、戦前戦後の科学の充実期に入らんとする日本の天文学会における指導者としての御業績にかんがみ、昭和39年、日本天文学会の名誉会員に推挙されました。

先生は、科学研究者として、科学行政の担い手であるばかりでなく、広く日本文化を体得した偉大な人生の師でありました。それは、草花を愛し、「岩海」と号して



絵に親しまれ、また文集「メタセコイヤ」にその人となりを感じることができます。

わたくしたちは、先生の築いて下さいました、近代天文学への礎石により、国際的にも、より高きをめざして、研鑽することが、御意志に副うものと考え、なお一層努力してまいります。

先生とのお別れに際し、日本天文学会を代表し謹んで御冥福を御祈り致します。

昭和56年10月7日

日本天文学会理事長

川口市郎

葬儀は10月7日午後1時から水沢市公民館に於いて市民葬で行なわれ、本会北村副理事長が参列しました。